とねり自然図鑑

平成29年度

協力：舎人地域学習センター
フォトクラブメビウス

もくじ

タシギ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３～Ｐ４

ヒドリガモ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５～Ｐ６

オジロワシ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７～Ｐ８

クイナ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P9～P10

ヘビクイワシ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P11～P12

トビ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P13～P14

シロフクロウ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P15～P16

カケス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P17～P18

ツミ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P19～P20

キジバト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P21～P22

ツバメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P23～P24

カワウ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P25～P26

Vol.39

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】水辺にそっと顔を出すタシギ、警戒心がとても強いので、脅かさないようにそっと近づいて、写真を撮りました。

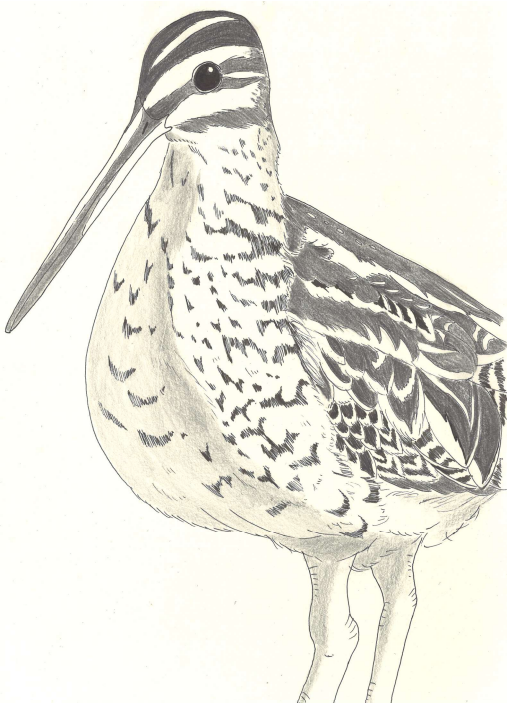
名 称：タシギ（田鴫）
学 名：Gallinago gallinago
体 長：約27cm
体 重：約100-130g
分 布：本州以南
主 食：ミミズ、昆虫類

【器用なくちばし】

○タシギは真っ直ぐで長いくちばしを持っており、その長いくちばしを使ってエサを取ります。採食場は主に、湿地や池や沼など。長いくちばしを泥の中に差し込んで、ミミズや昆虫などを食べます。長いので使いにくそうに見えますが、実は先端の方はとても柔らかく自由に動かすことができます。ただ、泥にくちばしを差し込んでいるだけでなく、泥の中で器用にくちばしの先をうごかしてエサを捕えているのです。

【警戒心が強い鳥】

○タシギは水田や湿地の草陰で暮らし、乾いた地域にはいません。普段から草陰にいるのでとても見つけにくいです。少しでも危険を感じると身をひそめ、しわがれた声で「ジェッ」と1～2回鳴いて飛び立ちます。また、飛ぶ時は真っ直ぐには飛ばず、とても素早く左右ジグザグに飛びます。そのため、狩猟者にとって仕留めるのが非常に難しい鳥といわれています。タシギは英語でスナイプといい、その狩猟の難しさから、狙撃（スナイプ）の語源になったという説もあります。



舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

真木広造『名前がわかる野鳥大図鑑』　永岡書店
小宮輝之　戸塚学『里山の野鳥ハンドブック』　NHK出版
叶内拓哉　安部直哉　上田秀雄『山溪ハンディ図鑑7　日本の野鳥』　山と溪谷社

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑を作ろう！

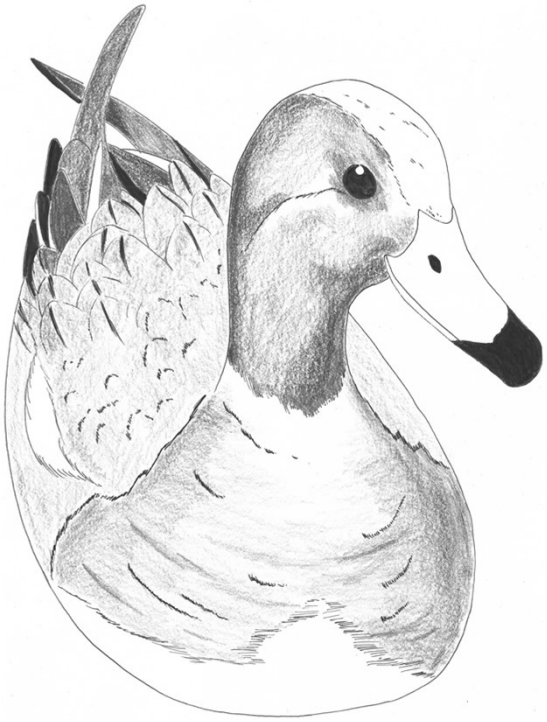
Vol.40

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】寒さの厳しい中、気持ち良さそうにぷかぷかと水面に浮かぶヒドリガモたちを撮影しました。

名 称：ヒドリガモ（緋鳥鴨）
学 名：Anas penelope
体 長：42-50cm
分 布：ユーラシア大陸
主 食：水生植物（海藻、青草など）



【個性的な鳴き声と色】

○鴨の鳴き声というと「ガァーガァー」という鳴き声を思い浮かべますが、ヒドリガモの雄は口笛のような「ピュー、ピュー」という高い声で、一声ずつ区切って鳴きます。雄の頭は全体的に褐色で、額から頭頂部にかけてクリーム色となり、その鮮やかなコントラストが目を惹きます。この頭の色を「緋色」に例えたことが、ヒドリガモ（緋鳥鴨）の名前の由来ともいわれています。また雌は他のカモ類の雌に比べて全体的に褐色がやや濃いです。

【北の国からの冬鳥】

○ヒドリガモは冬を越すために、主にユーラシア大陸やアフリカ北部から日本全国に渡来する冬鳥です。河川や沼、海岸などの水辺に群れで渡来し、その群れは多い時で数百羽にもなります。そのヒドリガモの群れに混じって、よく似たアメリカヒドリという種が渡来することもあります。アメリカヒドリはヒドリガモより体がやや大きく、雄は頭には緑色の光沢があります。ヒドリガモとつがいになることもあるそうです。

舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

真木広造『名前がわかる野鳥大図鑑』　永岡書店
氏原巨雄　氏原道昭『決定版　日本のカモ識別図鑑』　誠文堂新光社
叶内拓哉　安部直哉　上田秀雄『山溪ハンディ図鑑7　日本の野鳥』　山と溪谷社

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑を作ろう！

Vol.41

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】波打ち際から水面ギリギリに飛び、獲物を捕らえようとしているオジロワシを撮影することができました。

【ワシとタカ】

○ワシとタカの仲間は、日本に24種類、世界では220種類生息しています。しかし、ワシとタカに厳密な区別はなく、大きいものをワシ、小さいものをタカと呼んでいます。ワシの名前の由来については輪を描いて飛ぶという意味の「ワ」と、キジやアオジのように鳥の名前の最後につける音の「シ」をつけてワシになったという説があります。また、猛禽類の特徴として肉を引き裂きやすい鉤型のくちばしと、がっしりとした足があり、サケやマスといった大型魚やカモなども獲物としています。

名 称：オジロワシ（尾白鷲）
学 名：Haliaeetus albicilla
体 長：約80-95cm
分 布：ユーラシア大陸
主 食：大型魚、鳥

【荘厳な姿のハンター】

○オジロワシの体は全体的に褐色で、黄金のくちばしと白い尾がよく目立ちます。この白い尾が名前の由来でもありますが、若い時の尾の色は体の色と同じ褐色で、年を経ると共に白くなります。また、翼を広げると全長が180～230cmにもなり、オオワシに次ぐ大きさです。

オジロワシは現在、絶滅危惧種　類、国の天然記念物そのどちらにも指定されており、その個体数の減少が懸念されています。

舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

小宮輝之　戸塚学『里山の野鳥ハンドブック』　NHK出版

日本野鳥の会　水谷高英『みる野鳥記 20 ワシのなかまたち』　あすなろ書房

竹田津実『オジロワシ 北国からの動物記』　アリス館

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑を作ろう！

Vol.30

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

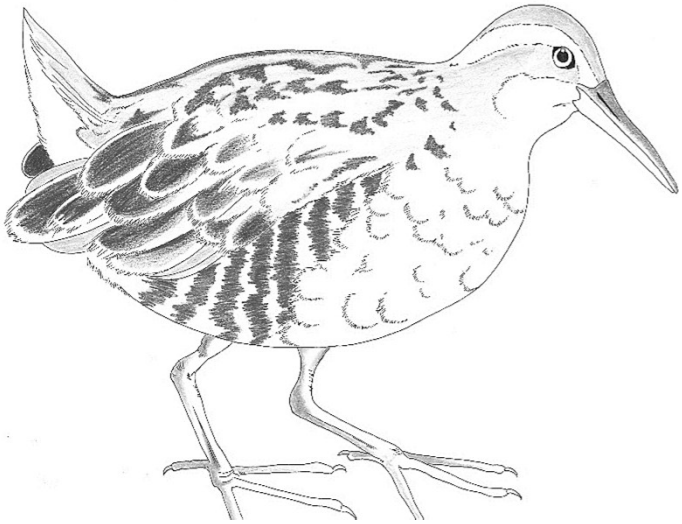
【撮影した方のつぶやき】獲物を狙っているかのように真剣な表情、舎人公園にある池に入っていこうとするクイナを撮影することができました。

【絶滅の危機にある仲間たち】

○クイナの仲間には飛べない鳥が多々います。国の天然記念物で知られる【ヤンバルクイナ】もその一種です。大陸から離れ、島に棲み、そこでのみ生息する固有の鳥です。彼らは、棲む場所に天敵がおらず、遠くに行かなくても一年中食べ物があったので、飛ぶ必要がありませんでした。飛ぶことと飛ぶ体を維持するためには大きなエネルギーが必要です。使うエネルギーを減らし、より少ない食料で生きられるように、飛ぶことをやめてしまったのです。

飛ばない鳥は飛べる鳥がネオテニー（体の一部が完全に成長しないまま大人になること）を経て、進化したのだと考えられているようです。クイナ類はヒナから成鳥になる際、飛ぶために重要な胸骨が他の部分より発達が遅いため、未発達なまま成鳥になる可能性が他の鳥より高く、飛ばない鳥が生まれやすいのだそうです。

名 称：クイナ（水鶏）
学 名：*Rallus aquaticus*
体 長：約29cm
生 息：水田、湿地、湖沼など
主 食：カエル、エビ、水生昆虫など



舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

上田恵介　『空を飛ばない鳥たち』　誠文堂新光社
大橋弘一　『鳥の名前』　東京書籍
本山賢司　上田恵介　『鳥類図鑑』　東京書籍

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！

Vol.31

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】もうずいぶん前に撮影した写真で、どこで撮ったのかは覚えていないけども、とても凛々しい顔のヘビクイワシをアップで撮影することができました。

【強靭な足を持つ、美しい鳥

○ヘビクイワシ【蛇食鷲】は名前の通り、ヘビを食べる習性がある鳥です。毒ヘビにも恐れずに攻撃をします。

ヘビの捕え方ですが、長い足で頭を踏みつけたり、蹴っ飛ばしたり、掴んで高いところから地面に叩きつけたりして、相手を気絶させてから食べます。その蹴りは強力で、頭が小さく、素早いヘビの頭もしっかり捕えます。その他にもカエルやトカゲ、小型の哺乳類や昆虫なども食べます。

ヘビクイワシはアフリカのサバンナに生息しており、大きな翼を持っていながら、めったに飛ぶことはありません。飛ぶ力がないわけではなく、夜に眠るときは敵から襲われないように、大きな翼を羽ばたかせて飛び上がり、樹上の巣へと帰ります。

ヘビクイワシはスラっとした長い足、眼の辺りのオレンジ色と大きな瞳、頭の黒い冠羽が特徴的な美しい鳥であり、南アフリカやスーダンの国章にもされている鳥です。

名 称：ヘビクイワシ（蛇食鷲）
学 名：*Sagittarius serpentarius*
体 長：110-150cm
体 重：2.3-4.3kg
分 布：アフリカ（サハラ砂漠以南）
主 食：爬虫類、昆虫類、小型動物

舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

上田恵介　『空を飛ばない鳥たち』　誠文堂新光社
上田恵介　柚木修　水谷高英『小学館の図鑑NEO〔新版〕　鳥』　小学館
川上和人　『鳥　ポプラディア大図鑑WONDA』

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！

Vol.32

とねり自然図鑑

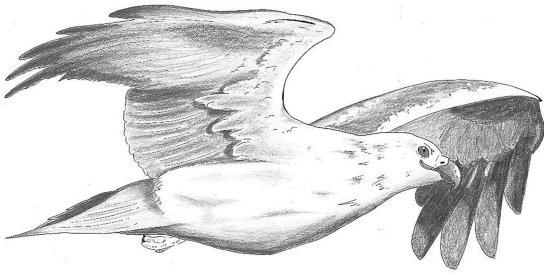
世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】海岸にある杭にひっそりと佇むとんびの姿はどこか寂しそうであり、勇ましくもあると感じた一枚でした。

【国によって違う、鳥の見方】

○遠く高く飛ぶという意味の「とおくひいる」が略され転化して「飛び」になったといいます。奈良時代から「とび」と呼ばれており、俗称は「とんび」。古く西洋や中国では、意地汚い鳥・もの忘れの象徴と悪いイメージで考えられていましたが、日本では全く違い、神の使い・聖鳥とみなされてきました。これは神武天皇の軍勢が金色のトビに助けられたという伝承が起源で、明治時代にこの故事は「金鵄勲章（きんしくんしょう）」として復活し、武勲をたてた軍人に数多く授けられました。また、昨今の日本でも馴染み深い猛禽類としてもよく知られています。「鳶が鷹を生む」や「鳶に油揚げをさらわれる」などということわざもあります。ただ、馴染み深いといっても良い意味だけではなく、人の攻撃を行うことで問題になっている鳥です。神奈川県の沿岸部では特に問題で、逗子、鎌倉、藤沢、久里浜などで人の食べ物をめがけてトビが飛びかかってくることもあり、怪我などの心配がされています。もともと警戒心が強く、人間に近寄らないトビがなぜこのようなことをするようになったのでしょうか。

名 称：トビ（鳶）
学 名：*Milvus migrans*
体 長：約55～60cm
体 重：約0.6～1.2kg
分 布：日本全土
主 食：ネズミ、昆虫、動物の死骸



舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

樋口広芳　『日本の鳥の世界』　平凡社
大橋弘一　Naturally　『鳥の名前』　東京書籍
本山賢司　上田恵介　『鳥類図鑑』　東京書籍

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！

Vol.33

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】白と黒褐色の斑点がとても綺麗で、立ち姿も威厳が感じられました。シロフクロウの綺麗な姿をしっかりと写真に収めることができました。

【傷ついたふりをする】

○シロフクロウは擬傷（ぎしょう）といってあたかも傷ついたようなしぐさをすることがあります。この行為は地上に巣をつくる鳥たちに多くみられ、巣にいるヒナたちを守るために行われるものです。外敵が巣に近づいてくると、親鳥は飛び出し、傷ついたように地上に落ちてバタバタともがき、外敵の注意をひきつけて、巣から遠ざけます。

擬傷は、巣にとどまろうとする気持ちと逃げようとする気持ちが一緒になった結果生じる、本能的な行動と考えられています。

名 称：シロフクロウ（白梟）
学 名：Bubo scandiacus
体 長：約60cm
体 重：約2kg
分 布：北極圏の湿原、草原
※北海道にまれに渡来する

【白夜の世界で生きる】

○シロフクロウは北極圏のツンドラ地帯で夏も冬も生活します。真っ白なその姿からか、英名ではSnowy Owl（雪のフクロウ）と呼ばれます。オスの成鳥は真っ白な羽毛でおおわれており、メスの成鳥は黒褐色の斑紋があります。

フクロウの多くは外敵から身を守るため、巣を木の穴や岩の上などに作りますが、シロフクロウはどこからも見える場所に巣を作ります。ツンドラ地帯には樹木がないからです。

舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

国松俊英　関口シュン『フクロウの大研究』　PHPノンフィクション
『ハイベスト教科辞典　動物の世界』　学研
上田恵介　柚木修　水谷高英『小学館の図鑑NEO　鳥』　小学館

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！

Vol.34

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】枝木に止まり、じっと真っ直ぐ先を見つめているカケスは勇ましく見えました。このカケスは今、何を考えているのかなと思いながら撮りました。

名 称：カケス（樫鳥、懸巣、鷽）
学 名：Garrulus glandarius
体 長：約33cm
体 重：約150-200g
分 布：九州以北
主 食：昆虫類、果実、種子

【ドングリを隠す】

○カケスはドングリが好物で、秋になると口の中にいくつもドングリを入れて運びます。運ぶ先は巣ではなく、巣の近くの落ち葉の下や木の根の影などに隠します。これは冬を超えるための食糧を貯蓄しているのです。
せっかく隠しているドングリも野ネズミやリスに奪われてしまうことがあります。しかし、カケスも負けじと奪い返すなど、取ったり取られたりの攻防戦になります。たとえ1 個のドングリでさえ冬には貴重な食料です。生き物たちは冬を超えるのに一生懸命です。

【変幻自在の鳴き声】

○カケスは声真似が得意で、カラスやウグイス、ヒヨドリ、トビ、タカなど様々な鳥の鳴き声を真似することができます。しかも、鳥だけではなくイヌなどの動物の鳴き声や簡単なものなら人間の声まで真似することができるそうです。また、生き物以外でも救急車やエンジン音なども真似ができ、これらの特技は敵を威嚇するために行っていると考えられています。

舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓
中村浩志『カケスの森』　フレーベル館
日本野鳥の会　薮内正幸『カラスのなかまたち』　あすなろ書房
吉野俊幸　寒竹孝子『鳥の自由研究　山や海で観察　春夏秋冬』　アリス館

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！

Vol.35

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】小さいながらも、凛とした佇まいはさすが鷹。勇ましい立ち姿に、思わずシャッターを切りました。

名　称：ツミ（雀鷹、雀鷂）
学　名：Accipiter gularis
体　長：オス約27cm
　　メス約30cm
体　重：約75-160g
分　布：日本全土
主　食：小鳥類、昆虫類

【日本最小の猛禽類】

○猛禽類というと、大きな鳥ばかりを想像してしまいますが、意外と小さいものも多いのです。このツミという鳥は、日本の中では一番小さな猛禽類として知られている鳥です。

小さな体で木々の間を縫うように飛び、小鳥などを狩って生活しています。

ツミは日本全土にいますが、沖縄地方に生息するツミは亜種【リュウキュウツミ】と呼ばれ、絶滅危惧種として扱われている鳥です。

【オスとメスの違い】

○ツミは成鳥になるとオスとメスで姿が異なります。体格もオスよりメスの方が大きく、体の模様も異なり、虹彩もオスは暗紅色、メスは黄色です。それらの違いにより、平安時代からメスは「つみ」、オスは「えっさい（悦哉）」と呼ばれており、近年まで別種と誤認されていたようです。

舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓
小宮輝之　戸塚学『里山の野鳥ハンドブック』　NHK出版
真木広造『名前がわかる野鳥大図鑑』　永岡書店
大橋弘一　＋　Naturally『鳥の名前』　東京書籍

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！

Vol.36

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】地面をよちよちと歩いて、木の実でも探していたのでしょうか？そのかわいらしい姿を写真におさめました。

名　称：キジバト（雉鳩）
学　名：*Streptopelia orientalis*
体　長：33cm
体　重：約75-160g
分　布：日本全土
主　食：種子、木の実など

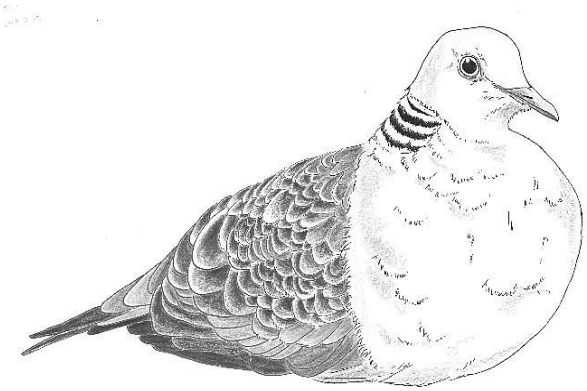
【時代で変化する名前】

○全国に生息している身近で代表的なハト類である『キジバト』。山林にいるハトの意味で平安時代から『ヤマバト』、室町時代には『ツチクレバト』などと呼ばれていました。ただし、古名の『ヤマバト』はキジバトとともにアオバトのことも指していたと考えられています。

羽の色や模様がキジに似ているということで江戸時代になると『キジバト』と呼ばれるようになりました。

【平和のシンボル】

○ハトは平和のシンボルとして有名ですが、その所以は旧約聖書にあります。その中のノアの方舟物語で、神様は世界中に大洪水を起こします。だんだんと水がひき、再び地面が現れたことをオリーブの葉を持ち帰って知らせた鳥がハトなのでした。神様は、もう決して世界を滅ぼすような大洪水は起こさないと誓って、空に虹をかけました。この時からハトは平和のシンボルとされるようになりました。



舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

日本野鳥の会　谷口高司『キジバトのなかまたち』　あすなろ書房
ピッキオ『鳥のおもしろ私生活』　主婦と生活社
真木広造『野鳥　日本で見られる287種判別のポイント』　永岡書店

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！

Vol.37

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】お腹が空いているのか、大きく口を開いたヒナが4羽。母親からエサをもらう貴重な瞬間を撮影することができました。

【春を告げる鳥】

○春になるとツバメは遠く離れた東南アジアから日本へやってきます。巣を作り、卵を産み、ヒナを育て、秋になるとまた南の国へ帰っていきます。なぜツバメは何千キロも長い旅をして、日本にやってくるのでしょう。その理由には様々な説があります。例えば、子育てをするにはエサとなる虫がたくさん必要ですが、一年を通し平均して虫が発生している東南アジアより、日本の春から夏の時期の方が虫が多いためという説があります。また、熱帯地域ではヒナがかかる病気が多く、より安全に子育てを行うためだともいわれています。

名　称：ツバメ（燕）
学　名：Hirundo rustica
体　長：約17cm
体　重：約18g
分　布：日本全土
主　食：昆虫類

【名前の由来】

○ツバメは古くは「つばくらめ」と呼ばれ、これが変化してツバメになったそうです。「つばくらめ」の由来は諸説あり、①泥で巣を作る姿が土を食べているように見えることから「つちばみ（土食み）が転じたもの。②その外見的な特徴から光沢（＝つば）のある黒い（＝くら）鳥（＝め）とするもの。③鳴き声が「つばくら」と聞こえることから。などが主な説だそうです。
飛び方で天気がわかるなど、昔から人間の生活にも馴染み深いツバメは、その関わりの分だけ様々な名前を持っているのかもしれません。

舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

北村亘『ツバメの謎：ツバメの繁殖行動は進化する！？』　誠文堂新光社
菅原光二『ツバメのくらし（科学のアルバム）』　あかね書房
神山和夫　渡辺仁　佐藤信敏『ツバメ（田んぼの生きものたち）』　農山漁村文化協会

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！

Vol.38

とねり自然図鑑

世界中にいる動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へぇ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した方のつぶやき】カワウが一羽、ぽつんと岩の上に立っていました。なんだかとても寂しそうな背中が印象的でした。

名　称：カワウ（河鵜、川鵜）
学　名：Phalacrocorax carbo
体　長：約82cm
体　重：約1.81-2.81kg
分　布：本州、四国、九州
主　食：魚類

【カワウとウミウ】

○カワウとウミウは名前も見た目もよく似た鳥ですが、生息している場所が違います。カワウは川や湖、内湾で暮らし、ウミウは海で暮らしています。

鵜といえば、全国各地でおこなわれている伝統漁法である「鵜飼い」があります。川で漁をおこなうことからカワウを連想しますが、実は使われるのはウミウです。それは、ウミウの方が体が大きくて力も強く、性格もおとなしいので扱いやすいためです。

【集団生活】

○カワウは早朝に集団ねぐらから数羽から数十羽、ときには百羽以上が隊列を作って採食場へ飛びます。隊列を作るときは主にV字編成をおこなって飛びますが、これは飛ぶためのエネルギーを抑え、体力温存するためだと言われています。採食場は基本的に川や湖で、潜水をおこなって魚類を獲ります。カワウは他の水鳥と違い、翼に水をはじく油分が少ないため、石の上や樹上にとまり翼を広げて羽を乾かします。夕方には再び群れとなって集団ねぐらへと帰ります。

舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

叶内拓哉　安部直哉　上田秀雄『山溪ハンディ図鑑　日本の野鳥』　山と渓谷社
おおたぐろまり　上田恵介『鳥のくらし図鑑』　偕成社
吉田巧　岩下縁『鳴き声と羽根でわかる　野鳥図鑑』　池田書店

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！